

2024年度 第3回阪大本番レベル模試(文) 国語 採点基準

I 現代文(評論) 採点基準(合計≒40点)

問一 11点

(模範解答例)

A①〇1点 A②〇1点

A③〇1点

A④〇1点

sinは「心の中」でまず起るものであり、「情欲を抱いて女を見る者は誰でも心の中ですでに姦淫の

罪を犯したことになる」ため〈A4点〉

B①〇1点 B②〇2点

この罪を犯していない者は「皆無といえるので」〈B3点〉

C①〇1点 C②〇1点

姦淫の罪でイエスの前に引き出された女は「石を投げる資格のある者などいないのだ」と言

C③〇2点

人々にさとりませよとすると、〈C4点〉(11点)

◎採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士で、また各条件内でも部分採点可能。

A 「sin」は『心の中』でまず起るものであり、『情欲を抱いて女を見る者は誰でも心の中ですでに姦淫の罪を犯したことになる』ため、「〈4点〉

※傍線部の理由を〈因果関係〉で説明するための〈因〉の条件。

① 「sin」の要素。(1点)

※ 「sin」の成分が入っていないければ✕。

② 『心の中』でまず起るものであり、「」の要素。(1点)

○ 『心の中』ですでに起っているものであり、「」『心の中』でまず犯しているものであり、「」などでも可。

✕ 『心の中』でまず起る」のニュアンス成分が入っていないければ✕。

③ 『情欲を抱いて女を見る者は』の要素。(1点)

○ 「女を情欲の対象として見る者は」「情欲をもって女を見る者は」などでも可。

✕ 「情欲を抱いて女を見る」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

④ 「心の中ですでに姦淫の罪を犯したことになる』ため、「」の要素。(1点)

○ 「心の中ですでに姦淫の罪を犯したことになるのだから、「精神において姦淫の罪を犯しているの」、「」などでも可。

✕ 「心の中ですでに姦淫の罪を犯したことになる」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

B 「この罪を犯していない者は皆無といえるので」〈3点〉

※ 傍線部の理由を〈因果関係〉で説明するための〈果〉の条件。

- ①「この罪を犯していない者は」の要素。(1点)
- 「この罪を逃れている者は」「この罪から自由な者は」などでも可。
 - ✖「この罪を犯していない者」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。
- ②「皆無といえるので、」の要素。(2点)
- 「皆無なので、」「一人もないので、」などでも可。
 - ✖「皆無」のニュアンス成分が入っていないければ✖。

C「姦淫の罪でイエスの前に引き出された女に石を投げる資格のある者などいないのだということ」を人々にさとらせようとすること。」「へ4点

※A、Bをまとめて結論づける条件。

- ①「姦淫の罪でイエスの前に引き出された女に」の要素。(1点)
- 「姦淫罪でイエスに対面させられた女に」「姦淫の罪でイエスの前に連行されて女に」などでも可。
 - ✖「姦淫の罪でイエスの前に引き出された女」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

②「石を投げる資格のある者などいないのだということ」を「の要素。(1点)

○「石を投げつける資格のある者などいないということ」を「石を投げる資格を持つる者など存在しないことを」などでも可。

✖「石を投げる資格のある者などいない」のいずれかのニュアンスの成分が入っていないければ✖。

③「人々にさとらせようとすること。」「の要素。(1点)

○「人々に理解させようとすること。」「人々に解らせようとすること。」「などでも可。

✖「人々にさとらせる」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

問二 9点

(模範解答例)

A①〇1点

A②〇1点

A③〇1点

「私」は

桜の下を寄り添って歩く美しい男女のことを冷やかしたわけではなく

格別の共感を

得られなかったただけなのに。へA3点

B①〇1点

B②〇1点

B③〇1点

「先生」は

恋の相手がおらず、

今の生に充実を感じられなく「私」の恨みを感じてとれること

B④〇1点

そればかりか恋をしなくてはならぬといふならまだしも

B⑤〇2点

へB6点

(9点)

◎ 採点のポイント

※A、Bは条件同士において、また各条件内でも部分採点可能。

A『私』は桜の下を寄り添って歩く美しい男女のことを冷やかしたわけではなく、格別の共感を得られなかっただけなのに。」「へ3点

※傍線部の理由説明するための一方の条件。

①『私』は「の要素。(1点)

✖『私』の成分が入っていないければ✖。

②「桜の下を寄り添って歩く美しい男女のことを冷やかしたわけではなく、」の要素。(1点)

○「美しい男女が桜の下を寄り添って歩くのを冷やかしたわけではなく、」桜の下で寄り添うように歩く美しい男女を冷やかしたわけではなく、」などでも可。

×「桜の下を寄り添って歩く美しい男女のことを冷やかす」の否定ニュアンスの成分が入っていないければ×。

③「格別の共感を得られなかっただけに、」の要素。(1点)

○「どうという共感も得られなかったのみに、」「これといった感慨も得られなかったただけのだが、」などでも可。

×「格別の共感」の否定のニュアンスの成分が入っていないければ×。

B 『先生』は、恋の相手がおらず、今の生に充実を感じられない「私」の恨みを感じるといい、そればかりか恋をしなくてはならないというならまだしも、恋は罪悪である、とまでいうのであったから。〈6点〉

※ 傍線部を説明するための「富子」の条件。

① 『先生』は、「の要素」。(1点)

× 『先生』の成分が入っていないければ×。

② 「恋の相手がおらず、」の要素。(1点)

○ 「恋の対象がいなくて、」「恋する相手が見つからず、」などでも可。

× 「恋の相手がいない」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「今の生に充実を感じられない『私』の恨みを感じるといい、」の要素。(1点)

○ 「現在の生に満足感を得ていない『私』の恨みが感受されるといい、」「今の生に充実感を得られない『私』の恨みを感じられるといい、」などでも可。

× 「今の生に充実を感じられない『私』の恨み」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

④ 「そればかりか恋をしなくてはならないというならまだしも、」の要素。(1点)

○ 「そのうえ恋をしなくてはならないというだけでなく、」「そればかりか恋をすべきだというならまだしも、」などでも可。

× 「恋をしなくてはならないというだけでなく」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

⑤ 「恋は罪悪である、とまでいうのであったから。」の要素。(2点)

○ 「恋は罪悪だとまで言い募るのであったから。」「恋は罪悪とまで言い切るのであったから。」などでも可。
× 「恋は罪悪である、とまでいう」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

(模範解答例)

A①〇1点 A②〇1点

姦淫は、確かに律法に反する宗教上の罪ではあるが、〈A2点〉

B①〇1点 B②〇1点

罪は内心で生起する以上、心の在り方によって罪の意味は変貌するものであり、実際女性が石打の刑の手前で

B④〇1点

B⑤〇1点

B⑥〇2点

イエスの前に引き出されたときは おびえきつていたと思われ、イエスはその姿を見て、彼女の「罪」はすでに

「罪」のかたちをしていないと感じたから。〈B7点〉(9点)

◎ 採点のポイント

※A、Bは条件同士、また各条件内でも部分採点可能。

A「姦淫は、確かに律法に反する宗教上の罪ではあるが、」〈2点〉

※傍線部の理由を説明するための譲歩の条件。

①「姦淫は、」の要素。(1点)

※「姦淫」の成分が入っていないければ✕。

②「確かに律法に反する宗教上の罪ではあるが、」の要素。(1点)

○「もちろん律法に背く宗教的な罪ではあるが、」確かに律法に違反する宗教上の罪なのだが、」などでも可。

※「律法に反する宗教上の罪」というニュアンスの成分が入っていないければ✕。

B「罪は内心で生起する以上、心の在り方によって罪の意味は変貌するものであり、実際女性が石打の刑の手前でイエスの前に引き出されたときはおびえきつていたと思われ、イエスはその姿を見て、彼女の『罪』はすでに『罪』のかたちをしていないと感じたから。〈7点〉

※傍線部の理由を説明するための、Aとは〈矛盾〉する、そして核心をなす条件。

①「罪は内心で生起する以上、」の要素。(1点)

○「罪は心の内で生起するものだから、」罪は内心に生まれるものである以上、」などでも可。

※「罪は内心で生起」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

②「心の在り方によって罪の意味は変貌するものであり、」の要素。(1点)

○「心の在り方従って罪の意味は変容するものであり、」心の持ち方によって罪の意味は変わっていくものであり、」などでも可。

※「心の在り方によって罪の意味は変貌」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

③「実際女性が石打の刑の手前でイエスの前に引き出されたときは」の要素。(1点)

○「女性が石打の刑に付される前にイエスの手前に連行されたときは」「実際女性が石打の刑の直前にイエスの前に連れて来られたときは」などでも可。

※「女性が石打の刑の手前でイエスの前に引き出される」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

④「おびえきつていたと思われ、」の要素。(1点)

○「ひどくおびえていたと思われ、」「おびえの極にあると感じられ、」などでも可。

※「おびえきつていた」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

⑤ 「イエスはその姿を見て、」の要素。(1点)

○ 「その姿を見たイエスは、」「イエスはその様子を感じ取り、」などでも可。

✖ 「イエスはその(「おびえ切った」姿を見る)のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

⑥ 「彼女の『罪』はすでに『罪』のかたちをしていないと感じたから。」の要素。(2点)

○ 「彼女の『罪』はすでに罰を受け取ってしまったていると感じたから。」「彼女の『罪』はすでに『罪』の姿を取っていないと思ったから。」などでも可。

✖ 「彼女の『罪』はすでに『罪』のかたちをしていない」というニュアンスの成分が入っていないければ✖。

問四 11点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

A③○1点

「「この」では、

恋が罪悪とされるもの、

人間の生を充実させる神聖なものともされ、」A3点

B①○1点

B②○1点

他方福音書では、

回心が「罪」の世界から「聖なる」世界へと向き直らうとすることだとされるが、

B③○2点

回心のためにはきつかけとしての「罪」が前提されており、」B4点

C①○0点

C②○0点

C③○2点

ともに 罪こそが聖性の契機として働いている点で、 類比の関係にあるといえる。」C4点 (11点)

◎採点のポイント

※A、B、Cは条件同士において、また各条件内でも部分採点可能。

A 「「この」では、恋が罪悪とされるもの、人間の生を充実させる神聖なものともされ、」C3点

※「福音書」と「この」の関係を説明するための「この」の側の条件。

① 「「この」では、の要素。(1点)

✖ 「「この」」の成分が入っていないければ✖。

② 「恋が罪悪とされるもの、」の要素。(1点)

○ 「恋を罪悪と断言しつつも、」「恋を罪悪と認定するもの、」などでも可。

✖ 「恋が罪悪とされる」というニュアンスの成分が入っていないければ✖。

③ 「人間の生を充実させる神聖なものともされ、」の要素。(1点)

○ 「人間の生の充実を支える神聖なものともされ、」「人間の生きがいともいえる神聖さを持つものともされ、」などでも可。

✖ 「人間の生を充実させる神聖なもの」というニュアンスの成分が入っていないければ✖。

B 「他方福音書では、回心が『罪』の世界から『聖なる』世界へと向き直らうとすることだとされるが、回心のためにはきつかけとしての『罪』が前提されており、」C4点

※「福音書」と「この」の関係を説明するための「福音書」の側の条件。

① 「他方福音書では、」の要素。(1点)

✖ 「福音書」の成分が入っていないければ✖。

②「回心が『罪』の世界から『聖なる』世界へと向き直ろうとすることだとされるが、」の要素。(1点)

○「回心は『罪』から『聖なる』世界へと向き直ることだとされるが、」「回心が『罪』の世界から『聖なる』世界を振り向くことだとされるが、」などでも可。

×「回心＝『罪』の世界から『聖なる』世界へと向き直ること」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③「回心のためにはきっかけとしての『罪』が前提されており、」の要素。(2点)

○「回心のきっかけとして『罪』が前提されており、」「回心にはきっかけとしての『罪』が先在しており、」などでも可。

×「回心のためのはきっかけとしての『罪』の前提」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

C「ともに罪こそが聖性の契機として働いている点で類比の関係にあるといえる。」へ4点

※A、Bから〈共通性〉ひきだしてまとめ、結論付ける条件。

①「ともに」の要素。(1点)

×「ともに」(＝『心ころ』も『福音書』も)「」の成分が入っていないければ×。

②「罪こそが聖性の契機として働いている点で」の要素。(1点)

○「罪こそが聖性の前提となっている点で」「罪が聖性に不可欠の条件として働いている点で」などでも可。

×「罪こそが聖性の契機」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③「類比の関係にあるといえる。」の要素。(2点)

○「ほぼ同じ構造の関係にあるといえる。」「仕組みが似ている関係にあるといえる。」などでも可。

×「類比の関係」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

Ⅱ 現代文(小説) 採点基準(合計35点)

問一 8点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

ハナの〈逢いたい〉を、

そうかそうか、ふんふんと言って流すトキヲの対応は、〈A2点〉

B①○1点

B②○1点

それを自分が責められているかのようには、
仕事だから仕方がないとか、無理なこと言われたってとか、

B③○1点

真面目に返されたら困るところを、〈B3点〉

C①○1点

C②○2点

こちらの瞬間的な気持ちの色合いをつかんで適当に応じてくれている、
妥当な態度だといっている。〈C3点〉(8点)

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士、また各条件内でも部分採点可。

A「ハナの〈逢いたい〉を、そうかそうか、ふんふんと言って流すトキヲの対応は、」〈2点〉

※ハナが傍線部のように思う理由を説明するための話題の条件。

①「ハナの〈逢いたい〉を、」の要素。(1点)

○「逢いたい」というハナに、「ハナが逢いたいというのを、」などでも可。

※「(ハナの)〈逢いたい〉」のニュアンスの成分が入っていなければ✕。

②「そうかそうか、ふんふんと言って流すトキヲの対応は、」の要素。(1点)

○「そうかそうか、ふんふんと受け流すトキヲの対応は、」
「ふんふん、そうか、と聞き流すトキヲの対応の仕方は、」などでも可。

※「(そうかそうか、ふんふんと言って)受け流すトキヲの対応」というニュアンスの成分が入っていなければ✕。

B「それを自分が責められているかのようには、仕事だから仕方がないとか、無理なこと言われたってとか、真面目に返されたら困るところを、」〈3点〉

※ハナが傍線部のように思う理由を説明すべく、Aを説明してゆく一方の条件。

①「それを自分が責められているかのようには、」の要素。(1点)

○「自分が責められているのだと感じて、」「自分が責められているように思って、」などでも可。

※「自分が責められているかのようには」のニュアンスの成分が入っていなければ✕。

②「仕事だから仕方がないとか、無理なこと言われたってとか、」の要素。(1点)

○「仕事があるとか、無理なことというなよとか、」「仕事だからしょうがないとか、無理なこと言われてもとか、」などでも可。

※「仕事があるとかor無理なことというなよとか」というニュアンスの成分が入っていなければ✕。

③「真面目に返されたら困るところを、」の要素。(1点)

○「真面目に返答されたら困ってしまうが、」「真面目に返されても対応に困るところ、」などでも可。

※「真面目に返されたら困る」というニュアンスの成分が入っていないければ✕。

C「こちら瞬間的な気持ちの色合いをつかんで適当に感じてくれている、妥当な態度であるから。」〈3点〉

※ハナが傍線部のように思う理由を説明すべく、Aを説明してゆく、Bとは〈矛盾〉する他方の条件。

①「こちらの瞬間的な気持ちの色合いをつかんで適当に感じてくれている」の要素。(1点)

○「こちらの瞬間的な感情の在り様を捉えて適当に対応してくれている」「こちら瞬間的な気持ちの状態を把握して適切に対処してくれている」

※「こちらの瞬間的な気持ちに適当に応じる」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

②「妥当な態度であるから。」の要素。(2点)

○「適切な態度であるから」「相応しい態度だから」などでも可。

※「妥当な態度」というニュアンスの成分が入っていないければ✕。

問二 10点

(模範解答例)

A○1点

ハナは、〈A 1点〉

B①○1点

B②○1点

施設に入っている母に、

自分を娘だと認識してもらうのに時間がかかるのみならず、〈B 2点〉

C①○1点

C②○1点

いつだったか、〈どなたか知りませんが〉、ご親切にありがとうございますと、恐ろしく他人行儀な笑顔を向けられて

C③○2点

ショックを受けた経験などがあつて、〈C 4点〉

D①○1点

D②○2点

ずっとこの人の子どもでいたいと言う気持ちを、なぜかせられることが多かったから、〈D 3点〉 (10点)

◎ 採点のポイント

※A、B、C、Dは条件同士において、また条件B、C、D内でも、部分採点可。

A「ハナは、」〈1点〉

※傍線部の心情を説明するための「主体」明示の条件。

※「ハナ」の成分が入っていないければ✕。

B「施設に入っている母に、自分を娘だと認識してもらうのに時間がかかるのみならず、」〈2点〉

※傍線部の心情を説明すべく、Aの心情を説明する〈not onlyP〉の一方の条件。

①「施設に入っている母に、」の要素。(1点)

○「施設で暮らす母に、」「施設に入所している母に、」などでも可。

※「施設に入っている母」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

②「自分を娘だと認識してもらうのに時間がかかるのみならず、」の要素。(1点)

○「自分が娘だと認めてもらうのに時間がかかるだけでなく、」「自分が娘であることを了解してもらうのに手間がかかるのみならず、」などでも可。

※「自分を娘だと認識してもらうのに時間がかかる」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

C「いつだったか、へどなたか知りませんが、ご親切にありがとうございます」と恐ろしく他人行儀な笑顔を向けられてショックを受けた経験などがあって、」〈3点〉

※傍線部の心情を説明すべく、Aの心情を説明する〈but also〉の、Bとは〈矛盾〉しない他方の条件。

①「いつだったか、へどなたか知りませんが、ご親切にありがとうございます」との要素。(1点)

○「先日、へどなたか知りませんが、ご親切にありがとうございます」と「かつて、知らない人間として親切を感謝されて」などでも可。

×「かつて、）知らない人間として親切を感謝された」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

②「恐ろしく他人行儀な笑顔を向けられて」の要素。(1点)

○「ひどく他人行儀な笑顔で接せられて」「おそろしくよそよそしい笑顔を向けられて」などでも可。

×「恐ろしく他人行儀な笑顔」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③「ショックを受けた経験などがあって、」の要素。(2点)

○「ショッキングな経験もあって、」「衝撃を経験させられて、」などでも可。

×「ショックを受けた経験」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

D「ずっとこの人の子どもでいたいと言う気持ちが多かったから。」〈3点〉

傍線部の心情を説明すべく、B、Cをまとめて結論付ける条件。

①「ずっとこの人の子どもでいたいと言う気持ちを」の要素。(1点)

○「ずっと親子の関係でいたいという心持を」「この先もこの人の娘でいたいという気持ちを」などでも可。

×「ずっと」この人の子どもでいたいと言う気持ち」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

②「なえさせられることが多かったから。」の要素。(2点)

○「しほませられることが多かったから。」「減退させられる思いに陥ることが多かったから。」などでも可。

×「なえさせられることが多かった」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

問三 9点

(模範解答例)

A①〇1点

A②〇1点

母の頭の調子は良いときも悪いときもあるのだと思ひ、長い間子どもをひき立ててもらったのだから

A③〇1点

これからはこちらが親役を演じればよいのだと考えられるようになったのは〈A3点〉

B①〇1点

B②〇1点

親密に子ども時代を分け合った トキヲがいてくれて、〈B2点〉

C①〇1点 C②〇1点 C③〇2点

父も母も 彼に甘え、 リラックスできる雰囲気を作ってくれているからだという思い。〈C4点〉
(9点)

◎ 採点のポイント

※A、B、Cは条件同士において、また各条件内でも部分採点可。

A 「母の頭の調子は良いときも悪いときもあるのだと思い、長い間子どもでいさせてもらったのだから、これからはこちらが親役を演じればよいのだと考えられるようになったのは」〈3点〉
※傍線部における「ハナ」の心情を説明するための前提となる条件。

① 「母の頭の調子は良いときも悪いときもあるのだと思い、」の要素。(1点)

○ 「母の頭の中は具合の良いときも悪いときもあるのだと考え、」母の頭の調子は良いときもあれば悪いときもあるのだとみなして、」などでも可。

× 「母の頭の調子は良いときも悪いときもある」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「長い間子どもでいさせてもらったのだから、」の要素。(1点)

○ 「いままで子どもでいさせてくれたのだから、」「長い間子どもとして育ててもらったのだから、」などでも可。

× 「長い間子どもでいさせてもらった」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「これからはこちらが親役を演じればよいのだと考えられるようになったのは、」(1点)

○ 「これからはこちらが親の役を担えばよいのだと思えるようになったのは、」「今後はこっちが親のように振舞えばよいのだと考えられるようになったのは、」などでも可。

× 「これからはこちらが親役を演じればよい」というニュアンスの成分が入っていないければ×。

B 「親密に子ども時代を分け合ったトキヲがいてくれて、」〈2点〉

※傍線部における「ハナ」の心情を説明すべく、Aを説明する〈因果関係〉の〈因〉の条件。

① 「親密に子ども時代を分け合った」の要素。(1点)

○ 「親しく子ども時代を共有した」「仲良く同じ子ども時代を送った」などでも可。

× 「(親密に) 子ども時代を分け合った」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「トキヲがいてくれて、」の要素。(1点)

× 「トキヲがいる」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

C 「父も母も彼に甘え、リラックスできる雰囲気を作ってくれているからだという思い。」〈4点〉

※傍線部における「ハナ」の心情を説明すべく、Aを説明する〈因果関係〉の〈果〉の条件。

① 「父も母も」の要素。(1点)

× 「父母」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「彼に甘え、」の要素。(1点)

○ 「彼にもたれかかり、」「トキヲに支えられて、」などでも可。

× 「彼(トキヲ)に甘える」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「リラックスできる雰囲気を作ってくれているからだという思い。」(2点)

○ 「リラックスできる空気を醸し出してきているからだという気持ち。」「ゆったりできる雰囲気を設けてくれているからだという心情。」などでも可。

× 「リラックスできる雰囲気を作ってくれている」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

(模範解答例)

A①〇1点

ハナが母に皮をむいて、口の中に入れてやっつて食べさせたり、

A②1点

その横で母と似た仕草でもにゅもにゅと食べる

父が甘さを褒めてみたり、

B①〇1点

B②〇2点

〈B3点

さらに母の肩揉みを終えたトキヲがハナの手から一つ掴み、

適当にむくなり半分に割って口に放り込んだりして、

C①〇1点

C②〇2点

母の暮す部屋を甘酸っぱい香りで満たして、家族の安定した様態を象徴する役割。〈C3点〉(8点)

◎ 採点のポイント

※A、B、Cは条件同士において、また各条件内でも部分採点可。

A 「ハナが母に皮をむいて、口の中に入れてやっつて食べさせたり、その横で母と似た仕草でもにゅもにゅと食べる
父が甘さを褒めてみたり、」〈2点〉

※波線部X「蜜柑」の役割を説明する一方の条件。

①「ハナが母に皮をむいて、口の中に入れてやっつて食べさせたり、」の要素。(1点)

○「ハナが皮をむき、母の口の中に入れて食べさせたり、」「ハナが皮をむいたのを母の口の中に入れて食べさせたり、」などでも可。

※「ハナが皮をむいて母に食べさせる」というニュアンスの成分が入っていなければ✕。

②「その横で母と似た仕草でもにゅもにゅと食べる父が甘さを褒めてみたり、」の要素。(1点)

○「その横で母同様の仕草でもにゅもにゅと食べながら父が甘さを褒めたり、」「父がその横で母と同じようにもにゅもにゅと食べつつ甘さを称えたり、」などでも可。

※「同様に父が食べながら褒める」というニュアンスの成分が入っていなければ✕。

B 「さらに母の肩揉みを終えたトキヲがハナの手から一つ掴み、適当にむくなり半分に割って口に放り込んだりして」〈2点

※波線部X「蜜柑」の役割を説明する他方の条件。

①「さらに母の肩揉みを終えたトキヲがハナの手から一つ掴み、」の要素。(1点)

○「また母の肩揉みを終えてトキヲがハナの手から一つ掴み出し、」「さらに母の肩揉みから解放されたトキヲが一つハナの手から掴んで、」などでも可。

※「母の肩揉みを終えたトキヲがハナの手から一つ掴む」というニュアンスの成分が入っていなければ✕。

②「適当にむくなり半分に割って口に放り込んだりして、」の要素。(2点)

○「適当にむいて割った半分を口に放り込むなどして、」「適当にむいて半分に割り、口に頬ばったりして、」などでも可。

※「むいた半分を口の中に放り込む」というニュアンスの成分が入っていなければ✕。

C 「母の暮す部屋を甘酸っぱい香りで満たして、家族の安定した様態を象徴する役割。」〈2点

※A、Bをまとめて、「蜜柑」の役割を端的に示す結論の条件。

①「母の暮す部屋を甘酸っぱい香りで満たして」の要素。(1点)

○ 「母の部屋を甘酸っぱい匂いで満たして」、「母の暮す部屋に柑橘系の匂いを充満させて」、「などでも可。
✕ 「母の暮す部屋を甘酸っぱい香りで満たす」というニュアンスの成分が入っていないければ✕。

②「家族の安定した様態を象徴する役割。」の要素。(2点)

○ 「家族の幸福感のある様子を象徴する役割。」「家族の満たされた様態を象徴する役割。」などでも可。
✕ 「家族の安定した様態を象徴する役割」というニュアンスの成分が入っていないければ✕。

Ⅲ 古文 40点

問一 2点×3＝6点

(解答) ① (ウ) ② (イ) ③ (ア)

問二 5点×3＝15点

① 5点

A○1点

B○1点

C○1点

D○1点

E○1点

「模範解答」 たいそうこっそりと

夫とは別の男と

親しくなったのを、

周囲の人が

あれこれと噂したので、

「ポイント」

A 「たいそうこっそりと」(1点)

○ 「たいそう」と「こっそりと」の両方ができていて【1点】。

※ 「たいそう」 同意例 ○ 大変・とても・非情に 等

※ ますます・次第に

※ 「こっそりと」 同意例 ○ 人目を避けて・人目を忍んで 等

※ 忍んで・我慢して・じつくりと 等

B 「夫とは別の男と」(1点)

○ 「夫とは別の男」 同意例

○ 夫ではない人・別の男・別の人・新しい男・新しい人 等

※ 男・夫・筑紫から上京した男・本妻・檜垣姫 等

C 「親しくなったのを」(1点)

○ 「親しくなった」 同意例

○ 交際した・関係を持った・契った・結ばれた・男女の関係になった
・逢った 等

○ 愛した・好きになった・愛し合った 等

※ 話した・語った・おしゃべりした 等

D 「周囲の人が」(1点)

○ 「周囲の人」 同意例

○ まわりの人・世間の人 等

※ 他人・他の人・誰か・夫・本妻・檜垣姫 等

E 「あれこれと噂したので」(1点)

○ 「あれこれ」と「噂した」と「ので」の全てができていて【1点】。

※ 「あれこれ」 同意例 ○ とやかく・いろいろ・ああやこうや 等

※ 「噂した」 同意例 ○ 言った・非難した・悪く言った・とがめた 等

※ 「ので」 同意例 ○ ため・から

② 5点

A ○1点 B ○1点 C ○1点

D ○1点

E ○1点

「模範解答」檜垣姫は、次第に、言い寄ってきた男に、愛情を抱き始めてしまったのだろうか、 その男に手紙の

返事などを書いた。

「ポイント」

A 「檜垣姫は」(1点)

○ 「檜垣姫」 同意例 ○ 姫・筑紫の女・上京した女

B 「次第に」(1点)

○ 「次第に」 同意例 ○ 少しずつ・徐々に・だんだん 等

C 「言い寄ってきた男に」(1点)

○ 「言い寄ってきた男」 同意例 ○ 求愛(求婚)してきた男・新しい男・夫とは別の男 等

D 「愛情を抱き始めてしまったのだろうか」(1点)

○ 「愛情を抱き」と「ってしまったのだろうか」の両方ができていて【1点】。

○ 「始め」の有無は不問。

※ 「愛情を抱き」 同意例 ○ 愛する・好きになる・好意を持つ・心ひかれる・気になる

・ 気に入る・恋心が生じる 等

※ 「ってしまったのだろうか」

同意例 ○ 「たのだろうか・たのか

○ 「か」がない) 「しまったのだろうか・たのだろうか

○ 「た」がない) 「しまうのだろうか・たのだろうか・たのか

○ 「た・か」がない) 「しまうのだろうか・たのだろうか

E 「その男に手紙の返事などを書いて」(1点)

○ 「返事をして・返事を書いて」の意があれば【1点】。

※ 「その男に」「手紙の」の有無は不問。

③ 5点

A ○1点

B ○1点

C ○1点

D ○1点

「模範解答」檜垣姫の乗った舟は、漕ぎ出して行ってしまったので、 夫と本妻は、返事ができないままに

なってしまった。 とかいうことである。

「ポイント」

A 「檜垣姫の乗った舟は」(1点)

○ 「檜垣姫の乗った舟」 同意例 ○ 舟(船)・檜垣姫・筑紫の女

B 「漕ぎ出して行ってしまったので」(1点)

○ 「漕ぎ出して」と「行ってしまった」と「ので」の全部ができていて【1点】。

※ 「漕ぎ出して」 同意例 ○ 漕いで・舟を出して・船が出て 等

※ 「行ってしまった」 同意例 ○ 出て行った・去った・出発した 等

※ 「ので」 同意例 ○ ため・から

C 「夫と本妻は」(1点)

○ 「夫は」の意があれば【1点】。

○ 「本妻」の有無は不問。ただし、「本妻」以外の人物が書かれている場合は、要素Cは✕。

※ 「夫」 同意例 ○ 筑紫から上京した男 等

× 男・筑紫の男 等

D 「返事ができないままになってしまった、とかいうことである。」(2点)

○ 「返事ができない」と「ままになってしまった」と「とかいうことである」の全てができていて、【2点】。

✕ 「返事をしない」の意がない場合は、要素Dは加点数なし。

▲ 「できない」(不可能)の意がない場合は、マイナス1点。

※ 「返事」 同意例 ○ 返歌

※ 「ままになってしまった」 同意例 ○ 「た」がついていればよい) なってしまった

・(でき)なかった・(できず)じまいだった 等

「た」が付いていない場合は、マイナス1点。

※ 「とかいうことである」 同意例 ○ (伝聞と分かればよい) のだとか・という・そんな

・とのことだ

▲ 「伝聞」表現がない場合は、マイナス1点。

問三 6点

(a) 6点

A ○2点 B ○2点

〔模範解答〕

夫は、檜垣が浮気をしていることは、本妻以外の人から聞いていたけれど、

C ○2点

聞き入れることなく、そのまま放って置いたということ。

〔ポイント〕

A 「夫は」(2点)

※要素Bも要素Cも0点の場合は、要素Aは加点数なし。

※ 「夫」 同意例 ○ 筑紫から上京した男 等

× 男・筑紫の男 等

B 「檜垣が浮気をしていることは、本妻以外の人から聞いていたけれど」(2点)

① 「姫の浮気を知っている(聞いている)」という内容が読み取れれば【1点】。

✕ 「姫」がない場合は✕。

※ 「檜垣」 同意例 ○ 姫・筑紫の女・上京した女

※ 「浮気」 同意例 ○ 他の男と関係している 等

② 「姫の浮気について」本妻以外の人から聞いた」という内容が読み取れれば【1点】。

✕ 「姫の浮気について」の意が読み取れない場合は✕。

C 「聞き入れることなく、そのまま放って置いたということ」(2点)

① 「聞き入れない」という内容が読み取れれば【1点】。

※「聞き入れない」

同意例 ○「聞いてはいるが心に留めない」の意があればよい(気にしない・心に留めず

・知らないふりをして 等

②「放って置いた」という内容が読み取れれば【1点】。

※「放って置いた」 同意例 ○ そのままにしておいた・普段どおりになっていた

・いつもどおりにしていた 等

(b) 6点

A○1点 B○3点

C○1点

「模範解答」

檜垣嫗は、夫から以前のように愛情をかけてもらえなくなり、筑紫に親兄弟がいたので、

D○1点

筑紫に帰りたいと夫に言った、ということ。

「ポイント」

A「檜垣嫗は」(1点)

※要素Bも要素Cも要素Dも0点の場合は、要素Aは加点なし。

※「檜垣嫗」 同意例 ○ 嫗・筑紫の女・上京した女

B「夫から以前のように愛情をかけてもらえなくなり」(3点)

※「愛情をかけてもらえなくなり」という内容が読み取れない場合は×。

※「愛情をかけてもらえなくなり」

同意例 ○ 愛されなくなり・一緒に居てもらえなくなり共に

○ (夫側からの書き方) 愛さなくなり・愛情が薄れ・気持ちがなくなり

・共に居られなくなり 等

※「夫から」

▲これに相当する表現がない場合は、マイナス1点。

同意例 ○ 筑紫から上京した男から

※「以前のように」 同意例 ○ 男から・筑紫の男から 等

▲これに相当する表現がない場合は、マイナス1点。

C「筑紫に親兄弟がいたので」(2点)

○「筑紫に」の有無は要素Cに関しては不問。

※「親兄弟」 同意例 ○ 家族・親族

× 親類・親戚・親・兄弟

D「筑紫に帰りたいと夫に言った、ということ」(1点)

○「筑紫に」は解答全体から読み取ればよい。

※「筑紫」 同意例 ○ 故郷・ふるさと・実家 等

※これに相当する語がない場合は×。

※「帰りたい」 同意例 ○ 戻りたい・帰郷するつもりだ

- (意志・希望表現がない) 帰る・戻る
○ 「夫に」の有無は不問。ただし、「夫」以外の人になっている場合は✕。
※「言った」 同意例 ○ 告げた・思った

問四 7点

A○2点

B○3点

【模範解答】 次々にいろいろな男と恋に落ちてしまう。我が身を情けなくは思うが、そんな心が懲りることがないから、またもや別の男を しみじみと恋しく思うのだろうか。

【ポイント】

A 「次々にいろいろな男と恋に落ちてしまう」(1点)

○ 「多情である・浮気っぽい」の意が読み取れれば【1点】。

○ 「男女の仲は大変だ・恋愛はつらい」といった意でもよしとする【1点】。

※要素A 同意例 ○ 浮気っぽい・すぐに新しい男と恋に落ちる 等

○ 浮気っぽい・すぐに新しい男と恋に落ちる 等

B 「我が身を情けなくは思うが、」(2点)

○ 「我が身を情けなく思う」の意があれば【2点】。

△ 「我が身を」がなく「情けなく思う」の意はある場合は【1点】。

※「情けなく思う」 同意例 ○ つらい・わずらわしい・悲しい・苦しい 等

✕ 寂しい

C 「そんな心が懲りることがないから」(1点)

○ 「懲りない」の意があれば【1点】。

○ 「そんな心が」に相当する表現の有無は不問。

※要素C 同意例 ○ 懲りないからだろうか・懲りないのだろうか

D 「またもや別の男を」(1点)

○ 「別の男を」の意があれば【1点】。

※「別の男」 同意例 ○ 夫以外の人・新しい男 等

E 「しみじみと恋しく思うのだろうか。」(2点)

① 「恋しく思う」の意があれば【1点】。

○ 「しみじみと」の有無は不問。

※「恋しく思う」 同意例 ○ 愛する・恋する・慕う・思いを寄せる 等

② 右の【1点】がある上で、「のだろうか」の意もあれば【プラス1点】。

※「のだろうか」 同意例 ○ いるのだろうか・のだろうか・いるのだろうか・ようだ・らしい

Ⅳ (漢文) 採点基準 (合計 35点)

問一 5点

(解答) 西 国 有_下 貢_二 二 獵 犬 於 王_一 者_上。(5点)

☆各加点要素の加点の条件

※完答のみ○5点。

※送り仮名をつけているものは不可×0点。

問二 3点×2＝6点

(2) 3点

(解答) ともにこれをやしなは(わ)しむ。(3点)

☆各加点要素の加点の条件

※完答で○3点。

※「すべて平仮名」にしているものは不可×0点。

※「これ」を「これをして」にしているものは不可×0点。その場合は「俱使之養」でなくてはならない。

(4) 3点

(解答) しつ(っ)く(す)る(こ)と(あ)たは(わ)ざ(ら)ば(3点)

☆各加点要素の加点の条件

※「すべて平仮名」にしているものは不可×0点。

▲「しつ(っ)く(す)る(あ)たは(わ)ず」と言い切っているものは▲1点減点。

○「しつ(っ)く(す)る(こ)と」「の」「と」はあってもなくても可。

○「とく(は)やく(か)ける(こ)と」「はやく(か)ける(こ)と」「でも○とする。

▲「とく(は)やく(か)ける(こ)と」「は▲1点減点。

A ○2点

B ○1点

(模範解答) やがて二頭の犬は成長し、王は狩猟に出て、

C ○3点

二頭の犬の猟の能力を試してみようとした。 (6点)

☆各加点要素の加点の条件

A 「やがて二頭の犬は成長し」(2点)

※ 「已に壮にして」の訳

▲ 「壮」になった主体が補っていないもの ▲1点減点。

○ 「やがて二頭(二匹)の犬は成長し」「やがて二頭とも成犬になったので」「すでに二匹とも成長したので」「二匹の犬が大人になって後」などで○。

▲ 「ついに成長したので」「すでに年月がたって」など ▲2点減点。

B 「王は狩猟に出て」(1点)

※ 「王田獵に出でて」の訳

※ 「田獵」には(注)「狩獵」あり。

○ 「王は狩猟に出て」「王は狩りに出かけ(て)」「王は二匹をつれて狩猟に出て」など○。

C 「二頭の犬の猟の能力を試してみようとした」(3点)

※ 「焉を試す」の訳

※ 「焉(これ)」の内容の可否(2点)。「これ」のままは ▲2点減点。

○ 「二頭(匹)の犬の猟の能力を試してみようとした」「二匹の獵犬としての能力を試した」「二匹の獵犬の働き具合を試してみた」など○。

○ Aで「二匹」が言ってあれば「獵犬としての能力を」と「獵の力を」とでも○。

▲ 「二頭の成長の具合を」「二頭の成長の違いを」などは ▲1点減点。

▲ 「〜ということ」のように説明問題の形で答えているものは ▲1点減点。

A〇2点

B〇2点

(模範解答) 農家で養った犬と名士の家で養った犬が もともと同じ母犬から生まれたのに、

C〇2点

一方はみごとに猟犬になり、もう一方は駄犬になっているのを

D〇2点

不思議に思ったということ。 (8点)

☆各加点要素の加点の条件

※AとCについて順は問わない。

※AとCを合わせた形でもよい。

※「農家で育った犬は立派な猟犬になったのに」(2点) 名士の家で育った犬はだめになった(2点)「

A「農家で養った犬と名士の家で養った犬が」(2点)

①「農家で育てられた犬と」に(1点)

②「名士の家で育てられた犬と」に(1点)

▲「二匹の犬が」のようにしているものは▲1点減点。

○一方が「名士(頭家)の家」で、もう一方が「農家(農舎)」で育てられた違いが言われていて〇2点加点。

B「もともと同じ母犬から生まれたのに」(2点)

※「其の原(もと)同一の母よりして出づるをすれば」の要素

○「もともと同じ母犬から生まれたのに」「同じ母犬が生んだのに」「同じ血をひいているはずなのに」「母が同じの兄弟犬なのに」「同じ母犬から生まれたと知って」「母犬が同じだと知って」など〇。

C「一方はみごとに猟犬になり、もう一方は駄犬になっているのを」(2点)

①「一方(農家の)は立派な猟犬になり」に(1点)

②「もう一方(名士の)は駄犬となった」に(1点)

※「立派」さ、「だめ」さについては、本文に沿って具体的に書いてあってもよいが、必須ではない。

D「不思議に思ったということ」(2点)

※「異とす」の説明

※AとCは「之(これ)」の内容に相当する。

※「異とす」は、ここでは「不思議に思った」「あやしく思った」の意。

※「すぐれている」「並々ではない」「非凡だ」などプラス評価は×0点。

※「〜という点で(二匹は)異なる」方向の説明は×0点。

※「違っている」も×0点。

※文末の「〜ということ」の有無は不問とする。

A〇2点

B〇1点

(模範解答) 農家の犬と名士の犬に違いが生じたのは、養育の仕方によるのであり、

C〇2点

D〇2点

E〇1点

それは犬だけでなく人間も同様で、習慣や環境によつて、美食を楽しむだけの人間と、

F〇1点

G〇1点

道理や正義に従う人間との、違いが生じるのだということ。 (10点)

☆各加点要素の加点の条件

※A～Gの要素の順は問わない。

A 「農家の犬と名士の犬に違いが生じたのは」(2点)

※「是くのごとくなり」の内容

○第1段落の、二匹の猟犬が農家で育てられたのと名士の家で育てられたのとで違い(差)が生じたことが言えていけばよい。

○どのような差がついたかまで書いてあってもよいが、必須ではない。

○Bの要素がなく、A「農家の犬と名士の犬で差ができたように」のように、C以下に続いてよい。

▲「差(違い)が生じた」ことが欠けているものは▲1点減点。

(例)「二匹の猟犬の例のように」↓▲1点

○「差(違い)」という語が書かれていなくても、農家の犬と名士の犬の違いを、具体的に並べて「違い」が分かるように記述されていけば○。

B 「養育の仕方によるのであり」(1点)

※「養に係るのみ」の要素

○「養育の仕方による」「養い方にかかっている」「育て(られ)方に左右される」「どう育てきたか(生活環境)によつて」など○。

○「養育の仕方(育てられ方)」が具体的に書かれていても可○。その場合Aとセットになっていければ、A+Bで3点。

(例)「名士の家でよい食事にありついてきた犬はのんびりしていて狩りが下手で、農家で育った犬はやせて身も細く狩りが上手なように」↓A+B〇3点。

C 「それは犬だけでなく人間も同様で」(2点)

※傍線部(6) そのものの要素

○Aのようであるのは「獣(ここでは犬)」だけではない、「人も亦た」同じである、ということが、言えていけばよい。

△「人ならなおさら」のようになっているものは△1点。

D 「習慣や環境によつて」(2点)

○『人も亦た』『養に係るのみ』である」という内容であればよい。

○「生活(環境)によつて」などでも○。

○具体的には第二段落の「美食に習へば」「礼儀に習へば」をさしているので、解答例を「習慣や環境によつて」としたが、「習慣や環境」のような語を使っていなくても、**Bと同様に**、「(人もまた) **養育の仕方(され方)**によつて(差/違い)(EFG)がでる」のようでも可。

△EFGの要素が無い場合は△1点。

E 「美食を楽しむだけの人間と」(1点)

※ 「人美食に習へば礼儀を見るも惟だ俛焉として食に就くのみ」の要素

- DとEを一緒にして、次のようでもD・Eで○2点。※Dは1点分。残り1点はDFが一緒の場合に加点。
- 「美食に慣れる(生活をする)」と食べるばかりの人間になり」↓D+E○で2点
- 「美食を楽しむ」が無くても、「生活が豊かだとダメな人間になり」のようにまとめてあれば、D+E○で2点。

F 「道理や正義に従う人間との」(1点)

※ 「礼儀に習へば飲食に遇ふも必ず焉を思ひて理義に殉ふのみ」の要素

- D・Fを一緒にして、次のようでもD+Fで○2点。※Dは1点分。残り1点はDEが一緒の場合に加点。
- 「礼儀に従う生活になれていると、道理に従う人間になる」↓D+Fで○2点
- 「正しくつけられれば正しい人間になる」のようにまとめてあっても、D+Fで○2点

G 「違いが生じるのだということ」(1点)

※ D・E・Fのような表現であれば、そのような「違いが生じる」ということでまとめてありたいが、

- D・E、D・Fを一緒にした言い方がそろって○になつていれば(=「DE」と「DF」を並べることで違いが明らかになつていれば)、Gの言い方が加えられていなくても▲1点減点にしないで、1点加点する。

※文末の「〜ということ」の有無は不問とする。